

積水化成品工業株式会社

東京都新宿区西新宿2-7-1 〒163-0727
小田急第一生命ビルTel. 03-3347-9711
ir_pr@sekisuikasei.com

www.sekisuikasei.com

2022年12月26日

積水化成品工業株式会社（本社：大阪市北区西天満2-4-4 社長：柏原正人）は、生分解性プラスチックを活用した新製品「RETONA FOAM BIO」を市場投入しました。現在、ハイケム株式会社（本社：東京都港区虎ノ門1-3-1 社長：高 潮）と共に、さまざまな分野での用途開発を進行中で、先日開催されたエコプロ2022（2022年12月7～9日 東京ビッグサイト）では、ハイケム株式会社ブースのディスプレイ用資材に使用することで環境製品として紹介しました。

新製品「RETONA FOAM BIO」を エコプロ2022 ハイケム社ブースにて紹介

1. 背景

現在、当社は気候変動や海洋ゴミ問題などの地球全体の環境課題に対して、企業活動を通じた取り組み SKG-5R を推進し、2030年までに全製品を構成する原材料の50%以上をリサイクル材料や生分解性プラスチックもしくはバイオマス由来プラスチックに置き換えるという目標を掲げています。このたび開発した生分解性プラスチック発泡体を「RETONA FOAM BIO」と命名し、特に、PLA（ポリ乳酸樹脂）の開発・市場展開ではハイケム社と戦略的基本提携契約を締結し、新たな価値創造に取り組み、持続可能な社会の実現に向けたソリューションを行っています。

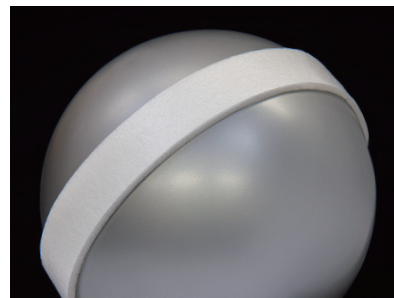
2. 「RETONA FOAM BIO」の市場展開例

「RETONA FOAM BIO」は、当社が保有する樹脂改質技術により開発した PLA や PBS などの生分解性プラスチック発泡体の総称です。

先日開催された、エコプロ2022（12月7～9日 東京ビッグサイト）において、ハイケム社の展示ブース内でディスプレイ用資材として紹介しました。ハイケム社は、ディスプレイパネルや文字装飾パネルとして「RETONA FOAM BIO」を使用したほか、次世代のサステナ素材「ハイラクト®」からできたアパレルの展示やファッションショーを行うなど、地球環境に配慮したサステナブルな展示提案を行いました。現在、展示会や見本市などのブース装飾は、会期終了後の大量廃棄が課題となっています。廃棄後、水と炭酸ガスに分解される「RETONA FOAM BIO」は、環境負荷低減が可能な素材として使用することが可能です。



ブース写真
〔デザイン・施工・演出：(株)NHKアート〕



しなやかな曲面追従性を付与できる素材で、立体的な造形も可能

3. 今後の展開

積水化成品グループは、持続可能な社会の実現に向けて SKG-5R を実践し、CO₂削減と環境貢献製品の創出に取り組んでいます。地球環境への課題解決に向けて、サーキュラーエコノミーへの移行は必須であると認識しています。

天然資源の使用量をできる限り削減し、既存の資源を有効活用して社会経済活動を循環するという考えのもと、広くソリューションを提案していきます。

以上